

(議事要旨) 社会資本総合整備計画①

「京奈和自転車道とピワイチを基軸とした歴史・文化を体感する自転車周遊による広域観光活性化計画(重点③)」の中間評価

●委員

自転車走行空間整備事業の完了数が極端に少ない。この原因は？

○道路保全課

ピワイチプラスルートにおいて自転車空間や青矢印表示などの整備を行うもので、非常に延長が長いこと、また舗装の状態が悪い区間は、舗装修繕後に整備することになることから時間を要している。

●委員

本計画を評価するうえでは、自転車による観光入り込み客数の増加分を示してほしい。主要な観光施設の利用者数がわかるといい。他には、立ち寄り拠点数や、施設数などでもいい。

○道路保全課

事後評価の際にはお示しできるよう、検討を進めていく。

●委員

自転車で歴史文化を体感するというのは何を見せるのか？ どういった周遊をするのか？

○道路保全課

例えば、拠点施設の信楽陶芸散策路では、周辺の窯元を巡るものになりますが、車では周遊しづらいところを自転車で移動するものとしている。

●委員

サイクリングでは、長距離を走る方がほとんどだと感じるが、あえて歴史文化を見てまわる人がおられるのか？

○道路保全課

最近では、ただ自転車で長距離を走るだけでなく、街道沿いなどを周遊する方も増えている。今後もそういった方々を取り込めるようにしたい。

●委員

ピワイチルートは左回りが基本だが、P.24 草津工区は、自動車と自転車の交錯が危険という説明であったが、走行方向が同じ車両同士なので、交錯することはないのでは？ 接触の危険性はあると思うが。

○道路保全課

自転車は車両なので左側走行。車道上の自転車を追い越す際は、車両がセンターをはみ出すことになるが、交通量が多いところは対向車も多く、交錯する危険がある。

●委員

P.12で植栽帯を削って整備しているが、琵琶湖総合開発で整備されたところ。その当時は道路緑化するべきという方針があったと思うが、こういった方針転換が図られたのか？

○道路保全課

自転車交通量の増加により、自転車の走行空間を確保するべきだと判断した。

また、サイクルツーリズムを進めることで、車からの転換でCO₂負荷削減や、環境保全意識の醸成を図るものと考えている。

ただ、植栽の撤去の前には、周辺の市町などに移植先の調整を行うことも検討しており、今後もそのように進めていきたい。

●委員

以前の議論では、琵琶湖岸を走る方にとって、植栽が邪魔で琵琶湖が見えないという意見もあった。風景が悪ければそこは植栽を撤去することも有効と感じる。すべての植栽を撤去するべきというわけではないし、以前に実施された事業の成果が損なわれることも、よろしくない。

●委員

最近、道路や公園で、防災や安全の理由で植栽を撤去されている。CO₂の排出についてはトレードオフできるようにすることが国際的な考え方。植栽を撤去したら、植えてもらわないといけない。移植を検討いただいているということで、今後も進めていただきたい。

安全性や景観性のほかに、風を防いだり、温度を下げたりする環境調整機能もあることから、総合的に判断いただきたい。また、樹木の選定や、植樹の間隔なども重要な要素。

●委員

事業を行ううえで、将来性も考えて、実施いただきたい。

●委員

時代の流れもあるかもしれないが、転換が行われる際には、当初の目標を損なうことのないよう、お願いしたい。

●委員

公費で整備したものを公費で撤去するのは違和感がある。長期計画で検討いただきたい。

以上